

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成25年度病虫害発生予察注意報第4号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第4号（チャバネアオカメムシ）を発表したので、送付します。

本年のチャバネアオカメムシ発生量は多く、9月中下旬の調査で被害の激しい園が一部で見られました。今後もカメムシの活動に適した気象条件が続くため果樹園への飛来が多くなり、被害拡大が予想されます。ほ場での発生状況の把握に努め、適期防除の徹底について指導願います。

注意報 第4号

1 対象作物：果樹全般（カキ、カンキツ、ナシ等）

2 病虫害名：チャバネアオカメムシ

3 発生地域：県下全域

4 発生量：前年・前々年より多

5 注意報の根拠

(1) 予察灯における誘殺数

県下5ヶ所の予察灯における9月1半旬～9月5半旬のチャバネアオカメムシの平均誘殺数は8,975頭と前期発生型である前年（498頭）、後期発生型である前々年（1,292頭）より多い（図1）。

・予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数（9月1半旬～9月5半旬）

筑紫野市	30,430頭	（前年 888頭、前々年 3,240頭）
朝倉市	681頭	（前年 237頭、前々年 128頭）
うきは市	133頭	（前年 60頭、前々年 51頭）
八女市	8,121頭	（前年 804頭、前々年 1,854頭）
飯塚市	5,510頭	（前年 503頭、前々年 1,188頭）

(2) 果樹カメムシ類によるカキの被害状況

9月中下旬のカキの被害状況は、被害果率で「伊豆」は8.1%、「富有」は7.9%と前年、前々年、平年より高く、被害果率が10%を超える多発生地域が認められている（表1）。

(3) 今後の気象予報

福岡管区气象台が9月27日に発表した1か月予報では、9月28日～10月27日の気温は高く、降水量は平年並とされているので、カメムシが盛んに活動することが予想される。

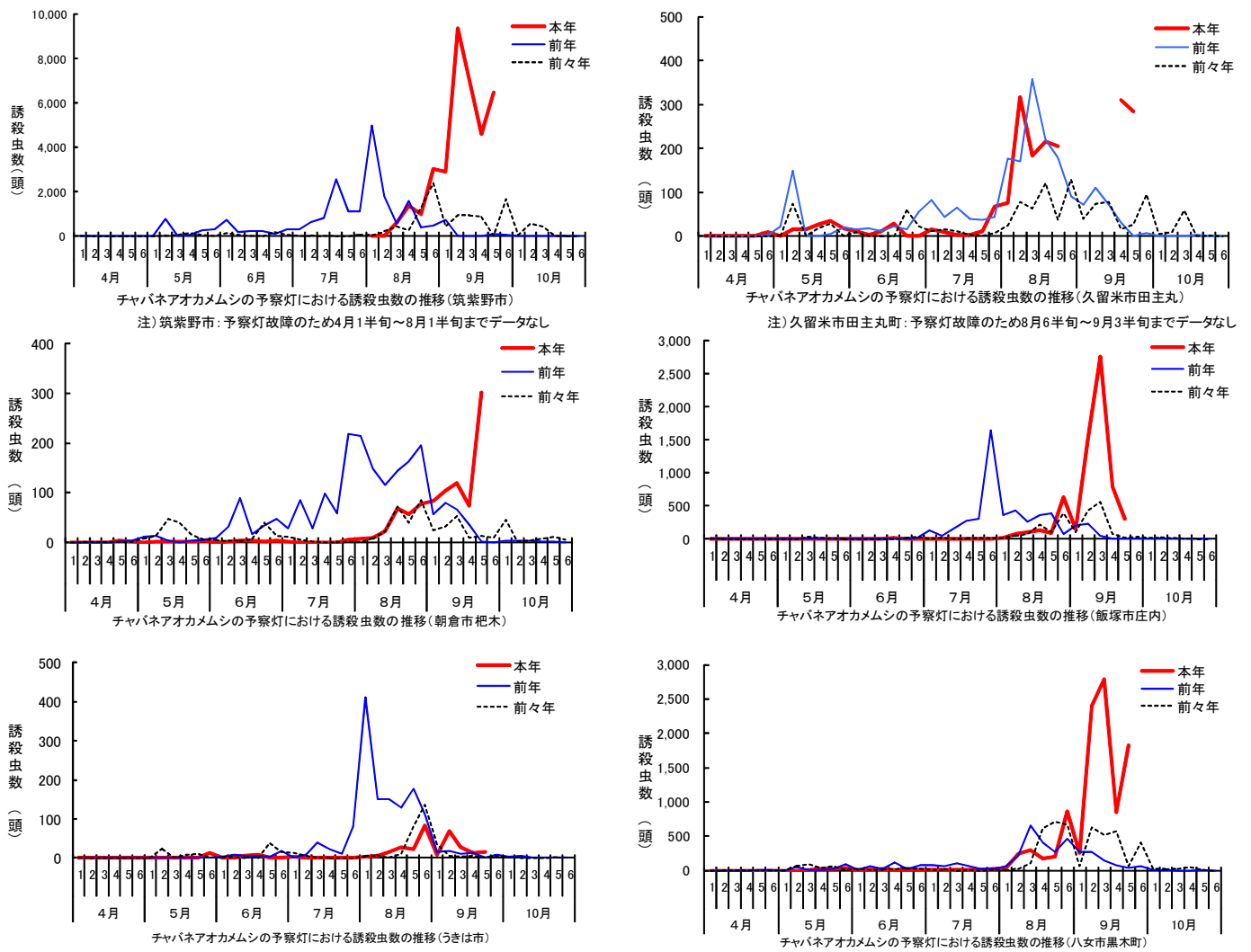


図1 チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数の推移

表1 果樹カメムシ類によるカキの被害状況

品種	調査地点		調査日	被害果率	品種	調査地点		調査日	被害果率
伊豆	朝倉市	杷木志波	9月17日	0	富有	飯塚市	入水	9月19日	0
		鳥集院		4		朝倉市	堤	9月24日	0
		北八坂		1		朝倉市	山田	9月25日	0
		須川		0		朝倉市	杷木志波		0
		山田		0		朝倉市	杷木古賀		21
		下須川		9		うきは市	吉井町福益	9月25日	4
	うきは市	浮羽町流川	1	うきは市		吉井町鷹取	1		
		吉井町屋部	55	うきは市		浮羽町流川	67		
		吉井町福益	11	うきは市		浮羽町山北	3		
		吉井町鷹取	0	久留米市		山本町耳納	9月24日	1	
	—					久留米市	田主丸町地徳	9月25日	6
	—					八女市	本分1	9月18日	0
	—					八女市	本分2	9月25日	0
—				本年		7.9			
—				前年		0.6			
—				前々年		1.5			

注) 調査果実数は1地点につき100果。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 夜温が低下する 10 月以降は予察灯での誘殺数が低下するが、昼間は移動して加害するので、引き続き注意する。
- (2) 発生は地域差が大きく、同一園内でも被害状況が異なるので、果樹園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- (3) 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除が効果が高い。
- (4) 薬剤散布は収穫前日数に注意し、農薬使用基準に従って防除する。
- (5) 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- (6) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。